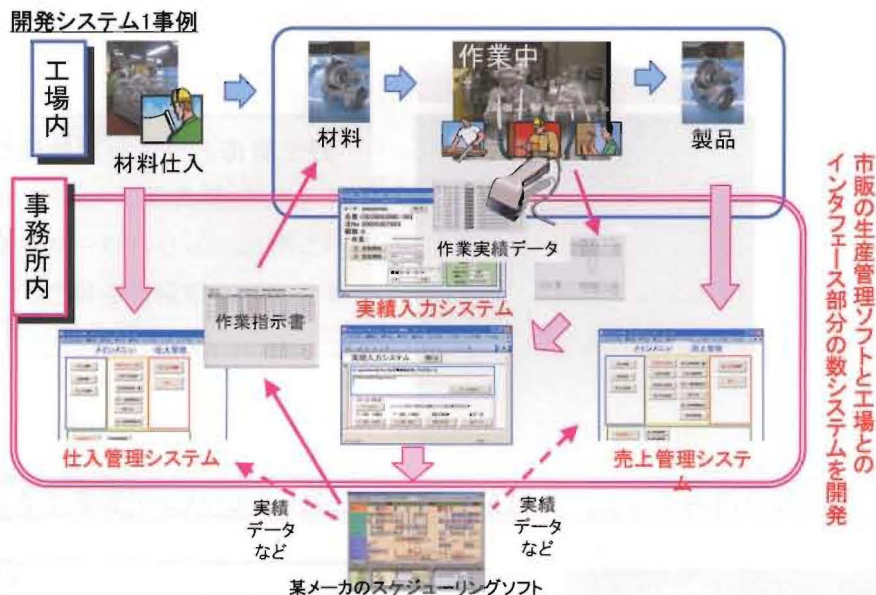


11 生産管理のための支援ツールの開発



■ 研究の背景

現在の生産管理の実態や、世界的に生産拠点が拡大していく今後の変化の方向性を考えると、生産管理に関する多くの改善が今後もより一層必要になる。単に現在の生産管理方式をシステム化し、生産活動のための道具で済ませようとするのは、生産管理の環境や仕組みが変化している中では困難である。生産管理の改善のためにシステムメンテナンスも同時に行っていくことが不可欠であり、1人でも多くの作業者がシステムの仕組みを理解し、システム構築技術を身につけることが求められる。

本研究では、平成15年～17年度の3ヵ年計画で、中小製造業が自社の製造過程を支援するシステムを自ら開発・運用するためのシステム開発技術に関して調査し、自社開発による生産管理のための支援ツールに関して、研究開発を実施してきた。

■ 研究の成果

初年度である平成15年度は、生産管理システムに関するアンケート調査を行なった。[生産計画]・[作業日報入力]・[実績管理]・[進捗状況]・[在庫管理]への関心が高かったことに着目し、これらの業務を支援するWebアプリケーション技術によるツールの試作を行なった。平成16年度及び17年度は代表的なデータベースソフトであるAccess[※]を用い、総合的な生産管理システムの開発とまでは至らないが、ある部分的な機能を果たすシステムの開発を、企業との共同研究として行なった。現在、開発したシステムは共同研究先企業において本稼働している。

(※Accessは、米国・Microsoft Corporationの登録商標である。)

■ 研究機関名

群馬県立産業技術センター、蔵前産業(株)、(株)浦和製作所

■ 研究期間 平成15年4月～平成18年3月